改名した行司に聞く

根　間　弘　海

１．はじめに[1]

最近、十両格以上の行司が何名か改名している。本稿では、主として、その行司がどういう理由で改名したのか、またどのような経緯で改名したのかについて調べてある。改名の理由や経緯について文献資料で調べることはほとんど不可能なので、各行司から「生の」声を聞くことにした。三役格行司や幕内格上位の場合、改名やその経緯について断片的な情報が得られることもあるが、最近幕内格や十両格に昇進した行司の場合は、必要な情報はまったく得られない。そういう状況なので、最近改名した行司を 10 名ピックアップし、それぞれの行司に協力をお願いすることにした。

まず、平成 21 年 1 月場所の初日、質問事項を書いた用紙を各行司に配布し、その日に回収した。回収した用紙を基に 5 月場所の初日、各行司にインタビューした。用紙の回収とインタビューは両国国技館の行司控室で行った。細かい点を確認するために、5 月場所中には何回か行司控室に通った。

行司控室では、特に立行司の庄之助と伊之助、3 名の行司監督、それに幕内格行司の錦太夫に大変お世話になった。もちろん、調査のためには 10 名の行司の協力が必要であり、一人一人の行司にずいぶんお世話になった。行司控室には他にも多くの行司がいるが、調査している最中など自分では気づかないが、隣の行司にご迷惑をかけたかもしれない。本稿をまとめるには、実際、立行司を始め、行司控室の行司から多大な協力を得ている。ここに改めて、すべての行司に感謝の意を表しておきたい。

---

[1] 昭和以降の行司については、特に 29 代庄之助にお世話になった。ここに改めて感謝の意を表する。

行司の改名や改姓については、拙稿「行司の改姓」(2004)、「行司の改名」(2005)、「由緒ある行司名」(2005) でもすでに発表しているが、本稿の研究も内容的にはほとんど同じである。本稿は同じ内容を異なる視点で調べてあると言ってもよい。異なる点と言えば、本稿は行司の「生の」声を直に聞くことができたことである。将来、平成 21 年頃の行司の改名を調べるとき、本稿の研究は貴重な資料となるはずだ。そう思いながら、本稿はまとめてある。

２．各行司の改名経緯

配布した質問用紙には 15 個の質問事項があったが、ほとんどの行司がその半分くらいの項目にだけ記入してあった。回答を引き出せるように、質問の仕方を工夫しておくべきだった。しかし、改名の理由や経緯についてはほとんど全員が回答してあり、それだけでも調査の目的は達成できている。

ここでは、なぜ改名したか、誰が改名を勧めたか、誰と改名の相談をしたか、いつ頃改名を意識し始めたかなどにポイント絞り、質問用紙で記入してあるものをまとめることにした。基本的には、行司が書いたものをそのまま記すように努めたが、中には表現を少し変えたものもある。

(1) 勘太夫（井筒部屋、時津風一門）

(a) 初土俵：S39.4。
(b) 地位：三役格（現在は伊之助)。
(c) 改名年月：H19.9。
(d) 前名：与之吉。
(e) 名前の所属：全体所属。
(f) 代数：10 代目。
(g) 改名の理由：師匠が勘太夫（6 代、後の 26 代庄之助、井筒部屋）だった。
(h) 改名を勧めた方：三役格昇進後、8 代勘太夫（後の 30 代伊之助、井筒部屋)。
(i) その他：幕内格昇進の頃から、師匠 26 代庄之助が入門当時、三役格で勘太夫を名乗っていた。

コメント：

(a) 現在は勘太夫ではなく、式守伊之助（38 代）になっている。最近まで、勘太夫を名乗っていたので、与之吉から勘太夫への改名について尋ねることにした。

(b) これまでは与之吉が勘太夫を継いできたが、現在、与之吉を名乗る行司がいない。このままでは、しばらく勘太夫が消えてしまう。勘太夫にしても与之吉にしても全体所属なので、与之吉でなくても別の名前を名乗っている行司が名乗る可能性がある。いったん与之吉に改名し、その後で勘太夫を継ぐという可能性もある。どちらになるかは分からない。

(c) 井筒部屋や伊勢ノ海部屋に行司がいたら、その行司がいつか与之吉や勘太夫を継ぐはずだが、現在、そのいずれの部屋にも行司がいない。勘太夫の名を早く受け継がすためには、別の部屋の行司が候補者になる。しかし、その行司が勘太夫を名乗るかどうかは、本人が判断することである。

(d) 式守姓の行司を見渡して見ても、その名を継ぐ可能性のある行司は少ない。というのは、錦太夫や与太夫はすでに名乗っている行司がいるからである。勘太夫は幕内格上位が継ぐというのが暗黙の了解なので、その地位にいる式守姓の行司が候補者になる。そのような候補者としては桐山部屋の式守鬼一郎がいるが、本人は今のところ鬼一郎を変える意思がない。考えを改めて勘太夫を継ぐかもしれないが、しばらくは鬼一郎で行きたいようだ。いずれにしても、将来、誰が式守勘太夫を名乗るか注意して見守りたい。

(2) 玉光（放駒部屋、二所ノ関一門）

(a) 初土俵：S40.7。
(b) 地位：三役格。
(c) 改名年月：H18.5。
(d) 前名：信孝。
(e) 名前の所属：一門所属。
(f) 代数：5 代目。
(g) 改名の理由：三役格になったら改名したほうがよいという話があった。
(h) 改名を勧めた方：平成 19 年 3 月ごろ、29 代庄之助親方より。
(i) その他：先代と語ったこともあり、名前をよく知っている。しかし、それに改名しようとは思っていなかった。

コメント：

(a) 信孝から玉光に改名したのは、本人の希望ではなく、先輩行司の 29 代庄之助の勧めによるものである。前名信孝は気に入っていて、三役格でもそれで行きたかったが、先輩行司から三役格に相応しい名前にしたほうがよいと言われ、それに従ったという。29 代庄之助は玉光と重政の 2 つを推薦したが、先代玉光（4 代）にお世話になっているので、玉光を選んだという。

(b) 玉光は自分としては 5 代目だと思っているが、大阪相撲までさかのぼると、代数はもっと増える可能性があるという。大阪相撲には玉光を名乗っていた行司はもっといたらしい[2]。大阪相撲の番付を調べれば、玉光の代数をかなり正確に分かるはずが、それは調べていないと語っていた。昭和 2 年を起点にすれば、現在の玉光は、確か、4 代目である。昭和 2 年以降は 16 代玉之助（大阪行司、本名：清水）、25 代庄之助、放駒部屋の行司（幕内格、本名：多田）が玉光を名乗っていた[3]。昭和 2 年の玉光（後の 16 代玉之助）については、番付だけでなく、『大相撲』（S54.5）の「22 代庄之助一代記（10）」（p.144）でも確認できる。

(c) 25 代庄之助は玉光から庄九郎に改名し、伊之助を襲名しているが、現在の玉光はもう別の名前に改名する気はないという。なぜですかと尋ねると、玉光になじんでいるし、改名すると覚えてくれるのに時間がかかるからだと語っていた。三役格だし、伊之助になるのももうすぐなので、その気持は理解できる。伊之助を目の前にし、改名した三役格の例は記憶にない。

(d) 一門に行司がたくさんいるので、その内の誰かに「玉光」を継いでほしいが、

---

[2] 大阪相撲までさかのぼると、玉光の代数が多くなるのは確かだが、私もそれを調べる資料を持ち合わせていない。現在の玉光は相撲博物館でも調べたが、大阪相撲の資料が少なく、結局、調査を諦めたらしい。玉光は先輩の行司や力士たちから「5 代目」だという噂を聞いて、現在は、そのように考えていると語っていた。いずれにしても、正確な代数の確認は今後の課題である。この「5 代目」は不確かなので、そのように指摘しておいてほしいということを語っていたので、そのことをここに記しておく。

[3] 昭和 2 年春場所番付 2 段目の左端に木村玉光の名前がある。これが後の 16 代玉之助である。花籠部屋の光彦（後の 34 代伊之助）が三役になったとき、玉光を名乗らなかったのは本人が断ったからである。これは先輩行司の 29 代庄之助から聞いた話である。光彦は、結局、光之助に改名している。なぜ断ったかは分からない。推測になるが、玉光が当時、「幕内格」の名前として理解されていたからかもしれない。いずれにしても、本人が名乗りを拒絶した例として面白い。

意中の行司はいないという。確かに、一門には若い行司が何名かいる。どの部屋の行司が玉光を継ぐか、静かに見守りたい。

(3) 庄三郎（大島部屋、立浪一門）

(a) 初土俵：S40.7。
(b) 地位：三役格。
(c) 改名年月：H15.1。
(d) 前名：玉治郎。
(e) 名前の所属：一門所属。
(f) 代数：10 代目。
(g) 改名の理由：幕内に昇進したから。
(h) 改名を勧めた方：31 代庄之助。
(i) その他：玉治郎を名乗り、庄三郎を名乗るのは、自然な流れである。

コメント：

(a) 玉治郎を名乗っていたので、庄三郎に改名したのは順当である。庄三郎の前は必ずしも玉治郎でなくてもよいが、玉治郎を名乗れば、次は庄三郎である。その逆はない。つまり、庄三郎を先に名乗り、玉治郎に改名することはない。庄三郎の前は角治郎や正夫を名乗っていた行司もいる。

(b) ヒゲの伊之助が昭和 26 年 5 月、庄三郎から式守伊之助になってから、昭和 49 年 7 月まで「庄三郎」を名乗る行司はいないが、それはたまたまその名を継ぎたいという行司が現れなかったからである。由緒ある伝統のある行司名であっても、それを継いでもよいという行司がいなければ、その名は消えてしまう。

(c) 次に誰が庄三郎を名乗りそうかと尋ねると、そんなことは誰にも分からないと一蹴された。継ぐとすれば一門の若い行司だが、改名は義務ではないからだ。あくまでも改名する本人が決断するものである。これまでの流れから推測すれば、次に庄三郎を名乗る最有力候補は、現在の玉治郎である。改名する時期は、現在の庄三郎が伊之助に昇格する頃だと推測する。

(4) 錦太夫（宮城野部屋、立浪一門）

(a) 初土俵：S50.3。
(b) 地位：幕内格。
(c) 改名年月：H18.1。
(d) 前名：吉之輔。

(e) 名前の所属：他の一門所属[4]。　　(f) 代数：11 代目。

(g) 改名の理由：幕内昇格。

(h) 改名を勧めた方：29 代庄之助。

(i) その他：系統的には木村姓なので、式守姓の内でも代表格の三太夫の名前を名乗るには少し違和感がある。

コメント：

(a) 宮城野部屋は元々木村姓だが、付け人になった兄弟子が式守姓であることから木村姓から式守姓を名乗るようになった。以前は、兄弟子が変わると、それに合わせて木村姓を式守姓に、また式守姓を木村姓に変えることがあった。最近は、兄弟子の名字が変わっても、最初に名乗った木村姓や式守姓を変えることはほとんどない。

(b) 錦太夫に改名したのは、29 代木村庄之助の勧めによるものである。行司仲間として 29 代木村庄之助とは輸送係など指導を受けた関係で、幕内格になったとき錦太夫を継ぐように勧められた。錦太夫の名前を絶やさないために 29 代庄之助が働きかけたようだ。

(c) 錦太夫は全体所属の名前だが、それを名乗るには少しためらいがあったようだ。宮城野部屋は系統的に木村姓だからである。しかし、29 代庄之助だけでなく、28 代庄之助の承諾もあったことから、錦太夫を受け継ぐことにしたと語っていた。28 代庄之助の同意を得たのは、錦太夫自身ではなく、29 代庄之助である。29 代庄之助が 28 代庄之助の同意を得たのは、28 代庄之助が錦太夫を名乗っていたからである[5]。

(d) 錦太夫の後には与太夫を継ぐことも可能であるが、もうその名を継ぐことはない。というのは、与太夫を名乗る行司が既にいるからである。しかも、与太夫は最近、幕内格に昇進したばかりで、年齢もかなり若い。したがって、

---

[4] 宮城野部屋に属しているので、式守姓は「他の一門」として理解したようだ。錦太夫は特定の一門に所属するのではなく、全体に所属している。

[5] 28 代庄之助の師匠は 20 代庄之助（松翁）で、この 20 代庄之助は長い間錦太夫（3 代）を名乗っていた。28 代庄之助は錦太夫（8 代）を名乗り、29 代庄之助も 28 代伊之助になる前、錦太夫（9 代）を名乗っていた。10 代錦太夫（つまり先代の錦太夫）は平成 17 年 5 月場所後に退職したが、2 年後の平成 19 年 2 月に亡くなった。

もし錦太夫が改名したければ、与太夫以外の名ということになる。

(5) 玉治郎（立浪部屋、立浪一門）

(a) 初土俵：S51.3。
(b) 地位：幕内格。
(c) 改名年月：H15.1。
(d) 前名：雅之助。
(e) 名前の所属：一門所属。
(f) 代数：6 代目。
(g) 改名の理由：師匠の 27 代庄之助親方の前名。
(h) 改名を勧めた方：平成 14 年 11 月ごろ、27 代庄之助と先代玉治郎。
(i) その他：玉治郎は師弟関係で受け継がれている。

コメント：

(a) 兄弟子の行司名を継いでいるが、これも順当な改名である。玉治郎は一門所属の名前であり、先輩行司たちからもそれを名乗るように勧められているからである。

(b) 次に改名するとなれば、第一候補は庄三郎である。三役格になるころには庄三郎に改名しているかもしれない。庄三郎を名乗っている先輩行司が大島部屋にいるので、その行司が伊之助になった後でなければ、庄三郎を名乗ることはできない。伊之助を待たずに改名したければ、庄三郎以外の名を名乗らなければならないが、このような例はまだない。

(6) 庄太郎（春日野部屋、出羽海一門）

(a) 初土俵：S55.1。
(b) 地位：幕内格。
(c) 改名年月：H19.1。
(d) 前名：善之輔。
(e) 名前の所属：自分の部屋所属。
(f) 代数：15 代目。
(g) 改名の理由：14 代目より幕内昇進したら継いでもらいたいとの要望により。
(h) 改名を勧めた方：14 代目庄太郎および先代春日野親方の両師匠。自分が十枚目格のとき、14 代目が定年を迎えており、その頃改名の話があった。
(i) その他：改名の話があれば継ぎたいと思っていたし、春日野部屋で

ある以上、継ぎたいと思っていた。

コメント：

(a) 改名について語り合っていた時、庄太郎代々のリストをいただいた。これは貴重な資料なので、資料として末尾にそのまま書き写してある。立行司以外に代々受け継いできた行司をまとめてある資料は初めてであった。庄太郎が春日野部屋所属で代々受け継いできたために、このような形で残されてきたに違いない。行司は昔から存在しているので、由緒ある部屋に代々の行司を記した「人別帳」のような記録が残っていないか、行司たちに尋ねてみたが、一人残らずそのようなものはないという返事だった。春日野部屋の「庄太郎代々リスト」は非常に珍しいケースである。

(b) 先輩行司から勧められて庄太郎に改名しているが、春日野部屋所属の名前なので、順当な改名だと言ってよい[6]。部屋の行司名を誇りにしている気風が感じられるし、伝統を大事にしていることも分かる。春日野部屋の行司はこれからも部屋の行司名を大事にしていくに違いない。

(c) 代々の庄太郎がすべて春日野部屋所属だったかどうかについては確信がないという。代々の庄太郎はその前に善之輔を名乗っていたわけではない。善之輔は 13 代庄太郎が最初に名乗っている。14 代庄太郎も善之輔から改名している。

(d) 善之輔の名前は春日野部屋所属だが、部屋に所属する行司は必ずしもそれを継ぐ必要はない。継いでほしいが、それを継ぐかどうかは本人の決断次第である。このように、現在の庄太郎は語っていた。庄太郎は幕内格になってから名乗ってほしいが、善之輔の名乗りはあまり地位にこだわらない。一応、十両格あたりであれば名乗ってよいと思うが、庄太郎は十両格に昇進する 1 年ほど前から善之輔を名乗ったという。

---

[6] 平成 19 年 1 月に庄太郎を継いでいるが、その 1 年ほど前にすでに決まっていたという。先代庄太郎（27 代伊之助）が急に亡くなったので、名を継ぐのに 1 年ほど喪が明けるのを待ったという。名前を継ぐのに「喪」が明けるのを待っていたと聞いて、このような「遠慮」があることに驚きを覚えた。

(7) 与太夫（高島部屋、立浪一門）

(a) 初土俵：H59.7。
(b) 地位：幕内格。
(c) 改名年月：H21.1。
(d) 前名：錦之助。
(e) 名前の所属：他の一門所属[7]。
(f) 代数：12 代目。
(g) 改名の理由：過去の文献を調べた。
(h) 改名を勧めた方：自分で判断し、先代与太夫の了承を受けた。
(i) その他:幕内格に昇格するのと同時に、与太夫を受け継ぎたいと思っていた。

コメント：

(a) 幕内格に上がったばかりで伝統ある与太夫を継いでいるが、名乗っていけないということはない。過去にも錦之助から与太夫を継いだ例があるし、錦太夫から与太夫に改名した例もある。与太夫を名乗る順序は固定したものではない。幕内格であれば、与太夫を名乗ってもおかしくない。

(b) 錦之助から与太夫に改名したとき、他の現役行司とは相談しなかったが、先代の与太夫とは相談した。先代の与太夫は健在なので、名前を継ぐ際は礼儀を尽くしている。どの行司でも、改名するとき、その名前を名乗った先代が健在であれば、その行司と相談をするなり、挨拶をしている。

(c) 与太夫は全体所属の名前である。したがって、式守姓を名乗っていれば、誰が名乗ってもよい。与太夫を受け継いだら、伊之助になるまで改名しないはずだ。与太夫も伊之助になるまで別の名前に改名することはないと語っていた。数年間は与太夫を名乗ることになる。与太夫は幕内格昇進と同時に改名しているからである。それまでの伝統ではそのとおりだが、改名の伝統は暗黙の了解であって、破っても罰則があるわけではない。したがって、現在の与太夫が心変りすれば、伊之助になる前にもう一度改名することもありうる。改名が本当にあり得ないかどうかは、今後を見守るしかない。

[7] 与太夫は時津風一門の所属のように受け取られる節があるので、この選択肢を選んだようだ。実際は、式守姓であれば、誰でも与太夫を継げるので、全体所属に分類するのが正しい。

(8) 鬼一郎（桐山部屋、立浪一門）

(a) 初土俵：H2.5。
(b) 地位：十両格。
(c) 改名年月：H18.3。
(d) 前名：脩。
(e) 名前の所属：全体所属。
(f) 代数：6 代目。
(g) 改名の理由：十両格昇進の時。
(h) 改名を勧めた方：9 代式守勘太夫さん。
(i) その他：十両格昇進の時、改名の話があった。

コメント：

(a) 24 代庄之助が鬼一郎を名乗っていたが、それ以来途絶えていた。久しぶりの復活である。鬼一郎は「鬼」が入っているため敬遠されるかもしれないと思っていたが、意外にも若い行司が名乗っている。この名前に違和感がなかったかを本人に直に尋ねてみたら、「まったくない」という返事が返ってきた。

(b) 鬼一郎に何か魅力があって復活したのかと尋ねてみたが、特に思い入れはないということだった。9 代勘太夫に勧められて、名乗ることにしたという。私は行司控室で 9 代勘太夫と以前語り合ったことがあるが、彼自身が鬼一郎を名乗りたかったと言っていた。理由ははっきりしないが、先輩行司から「ダメ」と拒絶されたと言っていた。そのような記憶があったので、9 代勘太夫はかなり「鬼一郎」に思い入れがあったことを再認識した。9 代勘太夫の夢を現在の鬼一郎が果たしたことになる。

(c) 行司名には伝統がありながら、現在は使われていないものがいくつもある。しかし、鬼一郎のように、誰かが復活して名乗るかもしれない。これは否定できない。十両格や幕内格に昇進し、改名する場合は、昔の由緒ある行司名を復活させるのも悪くはない。行司に関心があれば、それに伝統の面白さを見出すはずだ。

(d) 鬼一郎は気に入っているので、もう改名するつもりはないと本人は言っていたが、これは実際、どうなるか分からない。鬼一郎を名乗った行司を見ると、立行司になるまでにその名前を名乗っていたものもいるし、改名したものもいる。現在の行司は十両格なので、改名に関しては本人を含め、誰にも分からない。変えたければ変えてもよいし、変えたくなければ変えなくてもよい。

鬼一郎は固定した地位の名前でないので、本人の決断次第である。

(9) 朝之助（高砂部屋、高砂一門）

(a) 初土俵：H3.3。
(b) 地位：十両格。
(c) 改名年月：H20.1。
(d) 前名：勝次郎。
(e) 名前の所属：自分の部屋所属。
(f) 代数：4 代目。
(g) 改名の理由：高砂部屋ゆかりの行司名を譲り受けた。
(h) 改名を勧めた方：先代（33 代庄之助親方）からお話があり、部屋の師匠とも相談した。
(i) その他：十両昇格の約 1 年前位に改名の話があった。改名は先代から言われるまで考えていませんでした。

コメント：

(a) 改名は先代の朝之助から勧められている。長い間、兄弟子の付け人だったので、兄弟子の名前を継ぐのは、この世界では自然である。
(b) 高砂部屋には誠道と朝之助という由緒名がある。朝之助を継いだのは、たまたま兄弟子が朝之助をずっと名乗っていたからである。
(c) 先代朝之助は伊之助になるまで、朝之助を名乗っていた。過去には、朝之助から誠道に改名した行司もいるので、現在の朝之助が改名したければ、次は誠道を名乗ることもありうる。しかし、先代朝之助が健在であるうちは、誠道に改名しないかもしれない。もし誠道に改名するとすれば、やはり朝之助にまず相談するに違いない。
(d) 私は先代の朝之助と『大相撲と歩んだ行司人生 51 年』（2006、英宝社）を共著で出版した。ある時、行司控室で誠道に改名するつもりはないかと質問したことがある。誠道には「誠の道」を歩むという意味があるようで、それはどうも自分には相応しくない。それで、誠道に改名しないと語っていた。先代朝之助は誠道に改名する余地があることを知っていたが、あえてそれを選択しなかった。もし現在の朝之助がいつか誠道に改名したくなれば、そうしてもかまわないはずだ。
(e) 誠道という名の由来に関して、12 代伊之助（前名：小市、2 代目誠道）が『春

場所相撲号』（大正 12 年 1 月号）の「46 年間の土俵生活」（pp.108-11）で次のように述べている。

「（前略）この誠道という名は初代の新助、後に 16 代目の木村庄之助、高砂親方唯一の旦那であった愛知県熱田の魚問屋石原三左衛門さんが、新助は正直者だ、高砂のために苦楽を共にする誠の道を踏む男だと言って、初めて誠道の名が高砂部屋へできたので、それを私が相続しまして、44 年の 5 月場所に紫白の房を用いることが許されたのであります」（p.111）

33 代庄之助が「誠の道」を歩む意味があると言っていたが、その名の由来は代々高砂部屋では語り継がれてきたのかもしれない。

(10)　光之助（花籠部屋、二所ノ関一門）

(a) 初土俵：H3.11。
(b) 地位：十両格。
(c) 改名年月：H21.1。
(d) 前名：誠二。
(e) 名前の所属：一門所属。
(f) 代数：3 代目。
(g) 改名の理由：先代光之助の付け人を 10 年以上していて、3 年ほど前からその名前を継ぎたいと思っていた。
(h) 改名を勧めた方：昨年（平成 19 年）の初めごろ、花籠親方（師匠）と先代光之助（34 代伊之助）。
(i) その他：初代光之助は高砂部屋の方で、幕内まで上がったと聞いています。

コメント：

(a) 先代光之助の名前を継いでいるが、この改名は自然である。光之助は兄弟子が名乗っていた名前だからである。光之助は一門所属の名前だが、それを名乗る行司が他にいない。
(b) 光之助は 3 代目らしく、比較的新しい名前である。光之助の代数が実際に 3 代目なのかどうかは、分からない。これから受け継ぐ行司が増えれば、伝統のある行司名となる。
(c) 伝統のある行司名とはまだ言えないので、その名前の「格」がはっきりしな

い。つまり、十両格以上で名乗るのか、それ以下の行司でも名乗るのか、分からない。これも今後、その名前を継ぐ行司が増えれば、自然にその名前に「格」が備わってくる。しかし、行司名の「格」は暗黙の了解であって、文書で規定した「格」というものはない。これまでも、暗黙の「格」に違反した行司は少なくないが、一旦番付に記載されたら、それがそのまま認められている。名前の「格」はあるようでもあり、ないようでもあるというのが、実情である。

３．改名の要因

行司名には伝統があり、それを名乗るには考慮すべきことがいくつかある。そのような要素を次にいくつか示す。

(1) 行司名と所属

(a) 部屋所属

・ 朝之助と誠道は高砂部屋所属である。

・ 善之輔と庄太郎は春日野部屋所属である。

これらの名前は伝統的に特定の部屋に所属した行司が名乗っているが、将来、ずっと不変という意味ではない。そのような規則もない。今までのところ、特定の行司名が特定の部屋と密接に結びついている[8]。中には、将来、一門の行司が名乗る可能性もある。

(b) 一門所属

・ 玉治郎や庄三郎は一門所属である。

・ 式守姓には一門所属の行司名はない。

出羽海一門と高砂一門には式守姓がいないが、これはたまたま式守姓がいないというだけである。行司は兄弟子の姓を名乗る傾向があるで、この二つの一門には、現在、式守姓の行司がいない。しか

[8] 本稿では扱わないが、木村正直は朝日山部屋所属である。他にも特定の部屋と結びついた行司名はあるかもしれない。

し、過去には、たとえば、出羽海部屋には式守姓の行司もいた。さらに、相撲協会には同時に入門する行司が複数いた場合、従来の部屋系統に関係なく、式守姓を名乗せる可能性もある[9]。

(c) 全体所属

- 式守姓の錦之助、錦太夫、与太夫、勘太夫は、基本的に、全体所属の名前である。
- 木村姓の場合、全体所属の名前はない。部屋や一門以外の名前であれば、どの部屋の行司でもどの行司名でも名乗ることができる。そのような名前はある意味では全体に属する名前であるが、順序を踏まえて名乗る名前はない。伝統的な木村姓の名前は、基本的に、部屋所属か一門所属である。

錦之助、与太夫、勘太夫の中には、特定の部屋の行司が長い間名乗っているものもあるが、それはたまたまその部屋に行司が途切れることなくいたからである。この 3 つの行司名を名乗った行司を過去にさかのぼって調べてみると、部屋や一門とは関係ないことが分かる。つまり、式守姓を名乗っていれば、基本的に、誰でも名乗ることができる。

(d) その他 : 本人の自由。本名でもよいし、新しい名前を付けてもよい。

行司は改名せず、基本的に、自由にどのような名前でも名乗ることができる。特定の部屋に所属し、その部屋に所属する特定の名前があっても、それは名乗ってもよいし、名乗らなくてもよい。実際、十両格以上になっても伝統的な行司名に改名しない行司もいる。改名する機会はあったが、本人が改名に同意しないのである。

---

9 入門してきた行司を従来の部屋系統と関係なく、名乗らせたことが過去にあったかどうかははっきりしない。そのような話があったことは確かだが、実際に実施された例があるか確認していない。同じ部屋に式守姓と木村性を名乗る行司が二人以上いれば、確かな証拠となる。兄弟子が木村性であるにもかかわらず、付き人が式守姓を名乗っていても、それは必ずしも証拠にならない。というのは、他の部屋の兄弟子が式守姓の可能性もあるからである。

(2) 行司名の順序

行司名の中には、名乗りの順序があるものもある。その例を次に示す。

(a) 善之輔より後に庄太郎は名乗る。

(b) 玉治郎より後に庄三郎は名乗る。

(c) 錦之助より後に錦太夫や与太夫は名乗る。

(d) 与之吉より後に勘太夫は名乗る

この順序は先に善之輔や玉治郎を名乗った場合であって、それを名乗らなければ後の名前を名乗れないというわけではない。実際、善之輔や玉治郎以外の名前を名乗っていたが、庄太郎か庄三郎を名乗っている行司もいる。

(3) 式守姓の行司名の順序

錦之助、錦太夫、与太夫などには、名乗りに暗黙の順序があるが、この順序も状況次第で変わる。順序が変わる状況としては、次のようなケースがある。

(a) 錦之助、錦太夫、与太夫の場合、先に名乗った行司がいると、それを優先する。たとえば、錦太夫を名乗っている行司がいて、与太夫を名乗っている行司がいなければ、錦之助は与太夫を名乗ることもある。行司の間で話し合いを持ち、お互いに名前を同時に変えることができたら、暗黙の順序を守ることができる。しかし、そういう状況にない場合、順序にこだわらず、「空いた」行司を名乗るわけである。行司名の順序を規定した規則などないので、名乗りの順序は状況次第で変わることになる。

(b) 与之吉と勘太夫の名乗りにも順序があり、その逆の順序はない。たとえ与之吉を名乗らずに勘太夫を継いだとしても、勘太夫を名乗った後で与之吉を名乗ることはあり得ない。したがって、与之吉以外の行司が勘太夫を名乗ることがあるとすれば、二通りある。一つは、一旦与之吉に改名し、しばらくそれを名乗ってから、後で勘太夫に改名するものである。もう一つは、他の名前から直接勘太夫に改名することである。つまり、与之吉を名乗ることなく、勘太夫に名乗

るわけである。たとえば、現在、与之吉と勘太夫を名乗る行司はいない。このままだと、勘太夫を名乗る行司はしばらく現れない。名前の存続を考えた場合、他の行司名を名乗っている行司に継いでもらわなくてはならない。現在「空きに」なっている勘太夫を誰が継ぐか興味のあるところだ。結果を見て、どのような方法を取ったか判断するしかない。

(4) 行司名の格

行司名には暗黙の格があるものもある。しかし、これはある程度の地位につかないと継がないという程度のもので、必ずしも厳格なものではない。一般的に言って、十両格くらいで継ぐものと幕内格くらいで継ぐものとがある。

(a) 与太夫や勘太夫は幕内上位が名乗る。しかし、それを名乗っている行司がいなければ、幕内下位でも名乗ることがある。与太夫や勘太夫は、過去には、幕内格に昇進すれば、名乗ることもあった。もちろん、一旦名乗ったら、伊之助になるまでそれを名乗るのが普通である。

(b) 錦之助を名乗っていた行司が後で与太夫を名乗っているので、錦之助は与太夫より格が落ちかもしれない。しかし、錦之助の格がどの程度のものかははっきりしない。与太夫を継いでいる行司がいたら、幕内格でも錦之助を継がなければならないからである。

(c) 勘太夫も幕内格上位か三役格の行司名のような感じがするが、幕内格であれば継いでもおかしくない。与之吉と勘太夫がいたために、勘太夫が三役格でずっと名乗っていたというだけである。与之吉や勘太夫がいなければ、幕内格になったばかりの行司が勘太夫をついでもおかしくないのである。

(5) 改名の時期

改名は、基本的に、いつでもできる。しかし、改名している時期を調べてみると、大体 2 つに分けられる。

(a) 昇進時の頃

多くの場合、昇進が節目になっている。昇進は転機になるからである。昇進と同時に改名することもあるし、その前後に改名することもある。昇進の時期は前もって決まるから、後は手続きの問題となる。

(b) 昇進時以外

これには、いろいろな要因がある。改名はいつでもできるので、なぜ変えたかは行司ごとに異なると言ってよい。拙稿「行司の改名」と「行司の改姓」（共に 2007）でも行司の改名歴をいくらか扱っているが、理由はさまざまである。理由がどうであれ、改名はいつでも可能である。

(6) 改名を勧める人たち

改名は行司本人だけで決めるというより、周囲の人々に勧められて決めている。大体、次のような人々がかかわっている。

(a) 師弟関係や兄弟子

(b) 部屋の師匠や部屋付き親方

(c) 退職した先輩行司

(d) 自己判断

(e) その他：たとえば、現在は協会の一員でないが、元の力士が関係している場合があるかもしれないし、行司の親族が勧める場合もあるかもしれないし、行司が尊敬する先生や先輩の場合もあるかもしれない。中には、占い師の勧めで改名した行司がいるかもしれない。実際、過去にはそのような行司もいた。いずれにしても、改名には様々な人々が関与している。

４．おわりに

本稿では、最近、改名した行司を調べたが、これは「生の」声である。特に幕内格や十両格に昇進した行司の場合、相撲の文献では改名の理由や経緯に関するめぼしい記事はない。地位が低い行司は取り上げられないのが普通

だからである。幕内格以上の場合、雑誌などで取り上げられた行司が少しはあるかもしれないが、改名に関してはあまり言及されていないはずだ。その意味において、本稿で述べてあることは新鮮である。

改名に関し、本稿で述べてあることは、特別に珍しいことではない。本稿の特徴は、一人一人の行司に当たって改名の理由や経緯を直に確認したことである。10 名の行司であるが、ここで確認したことは基本的に他の行司にもほとんどそのまま適用できる。また、現役行司が退職し、数十年が経過すれば、本稿のような資料は非常に貴重なものになるにちがいない。行司の改名についてまとめて述べてある資料はほとんどないからである。

本稿では、改名の実態を調査したが、なぜ改名する必要があるかという疑問についてはまったく触れていない。これは、非常に重要な疑問である。改名することで、どのようなメリットがあるのか、また、改名しないで、どのような問題があるのか、実ははっきりしない。行司名には伝統があるが、なぜその伝統を守る必要があるのか、そろそろ追究しても悪くはない。実は、これについても触れたいと思いながら、結局、触れなかった。

由緒ある行司名を継ぐことは「伝統の継続」であり、これまで大事に守ってきたことは確かである。しかし、そのような伝統に行司全員が理解を示しているとは言えないようだ。というのは、伝統のある行司名に変えない行司もいるし、改名を喜ばない行司もいるからである。行司の全員が伝統を大事にしているならば、改名に抵抗すことなどないはずだし、むしろ、競って改名を申し出るはずである。もちろん、中には改名に誇りを持っている行司もいる。改名に疑問を抱いている行司もいるということは、改名の意義が理解されていないからである。伝統のある行司名を継続するのであれば、なぜそれを継続するべきか、再確認する必要がある。

参考文献

（ここで記した参考文献以外にも相撲の番付、各種の力士名鑑、相撲関連の雑誌、相撲に言及した新聞記事等を参考にした。）

金指基、2002、『相撲大事典』、現代書館.
木村庄之助（22 代）・前原太郎、昭和 32 年、『行司と呼出し』、ベースボール・マガジ

ン社.
木村庄之助（21 代）、昭和 41 年、『ハッケヨイ人生』、帝都日日新聞社.
木村庄之助（27 代）、1994、『ハッケヨイ残った』、東京新出版局.
木村庄之助（29 代）、2002、『一以貫之』、高知新聞社.
酒井忠正、1964、『日本相撲史（中）』、ベースボール・マガジン社.
式守伊之助（19 代）、『軍配六十年』、高橋金太郎.
式守伊之助（27 代）、1993、『情けの街のふれ太鼓』、二見書房.
『相撲』編集部、2001、『大相撲人物大事典』、ベースボール・マガジン社.
日本相撲協会博物館運営委員会（監）、昭和 50 年～56 年、『近世日本相撲史』（第 1 巻～第 5 巻）、ベースボール・マガジン社.
根間弘海、1998、『ここまで知って大相撲通』、グラフ社.
根間弘海、2004、「行司の改姓」『専修大学人文科学研究所月報』第 211 号、pp.9-35.
根間弘海、2005、「行司の改名」『専修大学人文科学研究所月報』第 218 号、pp.39-63.
根間弘海、2005、「由緒ある行司名」『専修大学人文論集』第 76 号、pp.67-96.
根間弘海、2006、『大相撲と歩んだ行司人生 51 年』、33 代木村庄之助と共著、英宝社.
根間弘海、2007、「幕下格以下行司の階級色」『専修経営学論集』第 84 号、pp.219-40.
根間弘海、2008、「立行司の階級色」『専修人文論集』第 81 号、pp.67-97.
根間弘海、2008、「明治 43 年以前の紫房は紫白だった」『専修経営学論集』第 87 号、pp.77-126.
根間弘海、2008、「明治 43 年以降の紫と紫白」『専修人文論集』第 83 号、pp.259-96.
根間弘海、2009、「昭和初期の番付と行司」『専修経営学論集』第 88 号、pp.123-57.
根間弘海、2009、「番付の行司」『専修大学人文科学年報』第 39 号、pp.137-162.
根間弘海、2009、「明治 30 年以降の番付と房の色」『専修経営学論集』第 89 号、pp.51-106.

資料 1：お願いと質問事項

（行司名）様

根間弘海

平成 21 年 1 月場所

改名に関する調査

最近、改名した行司が増えました。各行司がどのような考えで改名したのか、関心があります。それを記録として残しておきたいと思います。この用紙に記入した後で、それを参考にしながら、各行司の都合のよい時に、インタビューしたいと思います。5 月場所中、この行司部屋で行います。調査結果は平成 22 年度中、専修大学の紀要に発

表予定です。よろしくご協力のほどお願いします。

なお、大変申し訳ないのですが、この調査には謝礼金をまったくお支払いできません。

1. あなたの直前の行司名（　　）
2. 受け継いだ名前は次のうち、どれですか。
   a. 自分の部屋所属　b. 一門所属　c. 他の一門所属　d. 全体に所属
3. 受け継いだ名前は何代目に当たると行司仲間や部屋関係者は言っていますか。
   （　）代目
4. 受け継いだ名前と地位に違和感がありましたか。
   a. あった　b. なかった
5. どういう理由で改名しましたか。
6. 誰と相談して改名しましたか。あるいは、誰から話がありましたか。
7. いつ頃から改名の話がありましたか。
8. その名前についてどれくらい知っていましたか。
9. その名前はいつ頃から受け継ぎたいと思っていましたか。それはどうしてですか。
   できれば、現在の行司名以外の名前を受け継ぎたいと思っていましたか。それはどんな名前ですか。理由は何ですか。
10. 受け継いだ名前の代々の先輩について、どんな話を聞いていますか。それは誰から聞きましたか。
11. 次に改名する可能性はありますか（伊之助と庄之助を除く）。
    a. ある　b. ない
12. 次に改名する可能性があれば、どんな名前にしますか。それにはどういう理由がありますか。
13. 次に改名する可能性がないとすれば、どういう理由からですか。
14. 改名に関し、何かつけ加えることがあれば、それを書いてください。

コメント：

この質問用紙を配布するに際しては35代木村庄之助の許可を受けている。以前は協

会理事長に直接お願いして許可を受けていたが、理事長から行司のことは木村庄之助にお願いすればよいという返事をいただいた。それで、その後は、行司に関することをお願いする場合は、調査する内容を事前に木村庄之助に説明し、許可を受けることにしている。

行司部屋を始めて尋ねたのは 29 代木村庄之助のころであるが、それからもう 10 年が過ぎようとしている。東京場所がある時は、毎場所 1，2 回は行司部屋を訪ね、挨拶をしているが、その間には何となく気が合う行司さんも何人かできる。そのような行司さんにお会いする場合でも、やはりトップの木村庄之助には常に事前に連絡を入れることにしている。行司部屋は全員が集合している職場だからである。しかも歴然とした階級があり、それを行司さんは当然のこととして受け入れている。

私はこれまで現役行司を対象とした調査を頻繁に行ったわけでないが、行司に関することが知りたい時は、行司部屋に尋ね、行司さんに直接質問することにしている。書籍に書いてあるような事柄であれば、仕事ぶりを見てそれを確認できる。しかし、書籍ではなかなか分からないような事柄は、直接行司さんに確認するのがベストだ。たとえば、軍配の握り方を指導する行司監督の役割、付け人の割り振り表、各行司の仕事の配置や仕事ぶり、行司装束を着用する様子、各行司の挨拶の仕方などは、行司部屋に行かなければなかなか理解できなかったであろう。

行司さんのことで知りたいことがあれば、どの行司さんに尋ねても親切に教えてくれるが、私の場合、どちらかと言えば、これまで立行司や三役格に尋ねることが多かったし、現在も、そうである。45 名の行司さんのいる行司部屋では、全員に親しくすることは不可能で、どうしても、特定の行司さんに限定せざるを得ない。序列がモノをいう仕事場なので、私のような部外者は地位の高い行司さんに接することになる。行司部屋の行司さんはほとんど全員、顔は知っていながら一言も交わしたことがないのもたくさんいる。全員に親しくすることは物理的に無理で、行司部屋に行くたびに心苦しく感じる。

いずれにしても、行司に関することを知りたかったり、調べたかったりしたときは、トップの木村庄之助の許可を受けていたことを記しておきたい。そして、私のお願いを快く許可してくださった 29 代庄之助以降の歴代庄之助に心より感謝の意を表する。

資料 2：春日野部屋庄太郎代々リスト

	襲名期間	来歴
初代	正徳 3 年（1713）～享保 3 年（1718）	木瀬庄太郎→正蔵→庄太郎→5 代庄之助
2 代	寛延 3 年（1750）～宝暦 4 年（1754）	荒助→庄九郎→庄太郎→6 代庄之助
3 代	宝暦 7 年（1757）～明和 7 年 11 月（1770）	七次郎→庄太郎→7 代庄之助
4 代	安永 5 年 10 月（1776）～寛政 11 年 11 月（1799）	七次郎→庄太郎→8 代庄之助→喜左衛門→松翁庄之助
5 代	寛政 12 年 4 月（1800）～文政 7 年 5 月（1824）	喜八→喜代治→庄太郎→9 代庄之助→木村瀬平→10 代庄之助（再）
6 代	文政 7 年 10 月（1824）～天保 4 年 2 月（1833）	正助→庄太郎→11 代庄之助
7 代	天保 14 年 10 月（1843）～天保 15 年（1844）	正蔵→禎蔵→庄太郎→正蔵→12 代庄之助
8 代	弘化 4 年 2 月（1847）～嘉永 3 年（1850）	竜五郎→庄太郎
9 代	嘉永 6 年 11 月（1853）～万延 2 年 2 月（1861）	庄九郎→庄太郎→年寄中立
10 代	文久 3 年 7 月（1863）～明治 9 年 4 月（1876）	留吉→喜代治→庄太郎→14 代庄之助
11 代	明治 20 年 5 月（1887）～明治 26 年 5 月（1893）	多司摩→庄太郎→年寄藤島
12 代	明治 31 年 5 月（1898）～明治 38 年 5 月（1905）	亘→庄太郎（現役没）
13 代	昭和 22 年 6 月（1947）～昭和 34 年 11 月（1959）	喜太郎→善之助→善之輔→庄太郎
14 代	昭和 38 年 3 月（1963）～平成 4 年 10 月（1994）	英三→善之輔→庄太郎→27 代伊之助
15 代	平成 19 年 1 月（2007）～	春夫→善之輔→庄太郎

コメント：

この「庄太郎代々」は平成 21 年 1 月場所初日（1 月 11 日）行司部屋に改名の調査で行ったとき、現在の庄太郎から手渡されたものである。代々の庄太郎がその都度追加した基本帳のようなものがあるのかと質問をすると、そのようなものは残っていないということだった。この「庄太郎代々リスト」は先輩の 14 代庄太郎（後の 27 代伊

之助）から直に受け取ったものだという[10]。受け取った時はメモ書きだったが、庄太郎が清書したものである。これを見たとき、直観的に非常に大事な資料であることが分かった。これを後世のために、ここにそのまま書き写しておきたい。中身の細かい真偽は、研究者が文献で確認すればよい。

江戸相撲の番付は宝暦 7 年 10 月から残っている。それ以前の番付がないので、行司の襲名期間や来歴を知ることは非常に難しい。しかし、この「庄太郎代々リスト」には 3 代庄太郎以前の襲名年号と改名順序が記されている。この襲名年号は間違いないかと質問すると、分からないということだった。これは、先代の庄太郎が自分で調べて書き遺したものであり、その中身までは確認していないという。初代から 3 代まで襲名期間を確認するには、番付以外の資料を調べなければならない。

歴代の庄太郎については『人物大事典』の「木村庄太郎代々」（p.701）にもまとめてある。それとこの「庄太郎代々リスト」を比較してみると、襲名期間に関し、細かい点で少し違う記述がある。参考のために、それを列記しておく。

(a) 初代から 3 代までの襲名期間がこの「庄太郎代々リスト」では明確になっているものがある。たとえば、初代は、『人物大事典』では正徳 3 年から享保年間となっているが、この「庄太郎代々リスト」では正徳 3 年から「享保 3 年まで」となっている。つまり、「享保年間」と「享保 3 年」という違いである。

(b) 2 代は、『人物大事典』では「宝暦 3 年まで」となっているが、この「庄太郎代々リスト」では「宝暦 4 年まで」となっている。わずか 1 年の違いしかないが、なぜこのような違いがあるのだろうか。手続き上の問題以外に他の問題があるかもしれない。

(c) 5 代は、『人物大事典』では「文政 7 年正月まで」となっているが、この「庄太郎代々リスト」では「文政 7 年 5 月まで」となっている。これは手続きの問題かもしれないが、番付に基づくのであれば「同じ年月」のはずである。

(d) 7 代は、『人物大事典』では「天保 14 年 10 月」とだけ記入されているが、この「庄太郎代々リスト」では「天保 14 年 10 月から天保 15 年」となっている。つまり、襲名期間が明確になっている。「何月」までだったかは、記入されていない。「庄太郎」から「正蔵」の間で、「庄之助」を一場所名乗ってい

[10] どんな資料を参考にしてこの「庄太郎代々リスト」を作成したかは分からないらしい。襲名期間が記されているので、何かの資料を参考にしたことは間違いない。

るので、その「来歴」のせいで襲名期間が曖昧になっているかもしれない[11]。

(e) 8 代は、『人物大事典』では「嘉永 3 年 2 月まで」と明確に「月」も記入されているが、この「庄太郎代々リスト」では「嘉永 3 年」とだけなっている。嘉永 3 年春場所の番付に記載されているかどうかを調べれば、これは解決できるかもしれない。

(f) 14 代は、『人物大事典』では「平成 6 年 11 月まで」となっているが、この「庄太郎代々リスト」では「平成 4 年 10 月まで」となっている[12]。

改名の順序に関しては、『人物大事典』とこの「庄太郎代々リスト」を共に参考にしながら、番付を一つ一つ追跡していけばかなり正確なことが分かるに違いない。

資料 3：調査した行司の昇進年月と改名年月

(1) 式守勘太夫（井筒部屋）

・三役格昇進：H18.3（前名：与之吉）

・改名年月：H19.9（H20.8、式守伊之助に昇格した）

・先代勘太夫（9 代）：H13.1~H19.7（三役格で退職）

(2) 木村玉光（放駒部屋）

・三役格昇進：H19.9（前名：信孝）

・改名年月：H18.5

・先代玉光（4 代）：S2.1~S35.3（後の庄九郎）

(3) 木村庄三郎（大島部屋）

・三役格昇進：H19.9（前名：玉治郎）

・改名年月：H15.1

---

[11] この庄太郎は正蔵を名乗る前に「庄之助」を一場所名乗ったらしい（『人物大事典』(p.701)）。

[12] 自分が直接関わりのない年号は資料を調べて確認するが、直接関わりのある年号は往々にして記憶に頼ることがある。文献資料でも意外と最近の年号ではミスが多い。特に雑誌対談の場合、記憶に頼って年号を口にするので、そのような対談の年号は他の資料等で確認する必要がある。

・先代庄三郎（9 代）：S60.1~H13.11（後の 31 代庄之助）

(4) 式守錦太夫（宮城野部屋）

・幕内格昇進：H17.9（前名：木村吉之輔）

・改名年月：H18.1

・先代錦太夫（10 代）：H6.9~H17.7

(5) 木村玉治郎（立浪部屋）

・幕内格昇進：H18.1（前名：雅之助）

・改名年月：H14.1

・先代玉治郎（5 代）：S52.1~H14.11

(6) 木村庄太郎（春日野部屋）

・幕内格昇進：H18.3（前名：善之輔）

・改名年月：H19.1

・先代庄太郎（14 代）：S38.3~H6.11（後の 27 代伊之助）

(7) 式守与太夫（高島部屋）

・幕内格昇進：H21.1（前名：錦之助）

・改名年月：H21.1

・先代与太夫（11 代）：H4.1~H18.3（後の 34 代庄之助）

(8) 式守鬼一郎（桐山部屋）

・十両格昇進：H18.3（前名：脩）

・改名年月：H18.3

・先代鬼一郎（5 代）：S24.1~S34.11（後の 24 代庄之助）

(9) 木村朝之助（高砂部屋）

・十両格昇進：H20.1（前名：勝次郎）

・改名年月：H20.1

・先代朝之助（4 代）：S52.11~H18.1（後の 33 代庄之助）

(10) 木村光之助（花籠部屋）

・十両格昇進：H21.1（前名：誠二）

・改名年月：H21.1

・先代光之助（2 代）：H13.1~17.11（後の 34 代伊之助）

資料 4：現役行司の部屋所属と一門

部屋と一門を見ることで、木村姓か式守姓かをある程度予測できることがある。たとえば、出羽海一門と高砂一門であれば、どの部屋も木村性を名乗っている。なお、この一門表は平成 21 年 5 月場所現在のものである。(5 月場所以降、部屋の師匠と行司には少し変化が見られる。行司の場合、昇格したり、改名したり、辞めたりしている。)

(1) 出羽海一門

(a) 出羽海部屋（元関脇・鷲羽山）：行司・木村林之助（幕下格）

(b) 武蔵川部屋（57 代横綱・三重ノ海）

(c) 境川部屋（元小結・両国）：行司：木村達之助（序ノ口格）

(d) 田子ノ浦部屋（元前頭 1 ・九島海）

(e) 春日野部屋（元関脇・栃乃和歌）：行司・木村庄太郎（幕内格）／木村将二（幕下格）

(f) 玉ノ井部屋（元関脇・栃東）：行司・木村行之介（幕下格）

(g) 入間川部屋（元関脇・栃司）

(h) 千賀ノ浦部屋（元関脇・舛田山）：行司・木村秀朗（三段目格）

(i) 三保ケ関部屋（元大関・増位山）：行司・木村秋治郎（十両格）

(j) 北の湖部屋（55 代横綱・北の湖）：行司・木村勘九郎（幕下格）

(k) 木瀬部屋（元前頭 1・肥後ノ海）：行司・木村照一（序ノ口格）

(l) 尾上部屋（元小結・濱之嶋）

(2) 二所ノ関一門

(a) 二所ノ関部屋（元関脇・金剛）：行司・式守慎之助（十両格）

(b) 大嶽部屋（元関脇・貴闘力）

(c) 阿武松部屋（元関脇・益荒雄）

(d) 花籠部屋（元関脇・大寿山）：行司・木村光之助（十両格）／木村一馬（見習い）

(e) 放駒部屋（元大関・魁傑）：行司・木村玉光（三役格）／木村吉二郎（幕下格）

(f) 峰崎部屋（元前頭 2・三杉磯）：行司・木村堅治郎（十両格）

(g) 佐渡ケ嶽部屋（元関脇・琴ノ若）：行司・式守輝乃典（序ノ口格）／式守志豊（序ノ口格）

(h) 尾車部屋（元大関・琴風）

(i) 間垣部屋（56 代横綱・2 代若乃花）

(j) 鳴戸部屋（59 代横綱・隆の里）：行司・木村隆男（十両格）／木村隆之助（序ノ口格）

(k) 松ケ根部屋（元大関・若嶋津）

(l) 芝田山部屋（62 代横綱・大乃国）

(m) 貴乃花部屋（65 代横綱・貴乃花）

(n) 片男波部屋（元関脇・玉ノ富士）：行司・式守玉三郎（幕下格）

(3) 高砂一門

(a) 高砂部屋（元大関・朝潮）：行司・木村朝之助（十両格）／木村悟志（序二段格）

(b) 東関部屋（元関脇・高見山）：行司・木村要之助（十両格）

(c) 中村部屋（元関脇・富士櫻）：行司・木村亮輔（三段目格）

(d) 錦戸部屋（元関脇・水戸泉）

(e) 九重部屋（58 代横綱・千代の富士）：行司・木村恵之助（幕内格）／木村晃之助（幕内格）

(f) 八角部屋（61 代横綱・北勝海）

※高田川部屋（元大関・前の山）：行司・木村和一郎（幕内格）／木村勝之助（見習い）

この高田川部屋は平成 10 年 2 月、高砂一門を離脱し、以来無所属となっている。

(4) 時津風一門

(a) 時津風部屋（元前頭３・時津海）

(b) 荒汐部屋（元小結・大豊）：行司・式守一輝（三段目格）

(c) 式秀部屋（元小結・大潮）

(d) 伊勢ノ海部屋（元関脇・藤ノ川）

(e) 鏡山部屋（元関脇・多賀竜）

(f) 井筒部屋（元関脇・逆鉾）：行司・式守伊之助（立行司）

(g) 陸奥部屋（元大関・霧島）

(h) 錣山部屋（元関脇・寺尾）

(i) 湊部屋（元小結・豊山）：行司・木村元基（十両格）

(5) 立浪一門

(a) 立浪部屋（元小結・旭豊）：行司・木村庄之助（立行司）／木村玉治郎（幕内格）

(b) 大島部屋（元大関・旭国）：行司・木村庄三郎（三役格）／木村寿行（幕内格）

(c) 春日山（元前頭１・春日富士）

(d) 伊勢ケ濱部屋（63 代横綱・旭富士）：行司・式守憲吾（序二段格）／式守正宏（序二段格）

(e) 桐山部屋（元小結・黒瀬川）：行司・式守鬼一郎（十両格）

(f) 高島部屋（元関脇・高望山）：行司・式守与太夫（幕内格）

(g) 友綱部屋（元関脇・魁輝）：行司・式守友和（序ノ口格）

(h) 追手風部屋（元前頭２・大翔山）

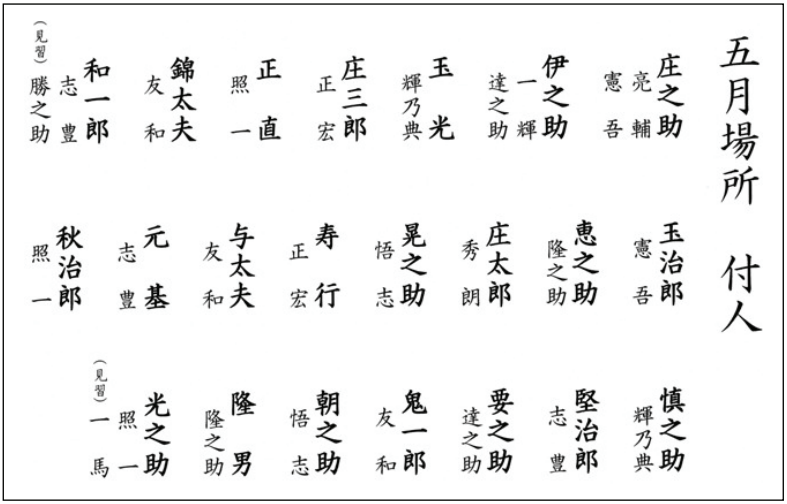
(i) 宮城野部屋（元十両２・金親）：行司・式守錦太夫（幕内格）

(j) 朝日山部屋（元大関・大受）：行司・木村正直（三役格）

資料 5：平成 21 年 5 月場所の付人割当て表

この「付人割当て表」は立行司庄之助にお願いしていただいた。毎場所、このような「割当て表」が行司部屋のホワイトボードに張り出されている[13]。門外不出ではないが、その存在はあまり知られていない。実際の「割当て表」には行司名だけが記されている。その実物を次に示す。

[13] 以前にも拙稿「行司の改名」（2005, p.53）に平成 16 年 5 月場所の「付け人一覧表」を掲示した。当時は木村元基までが十両格以上だったが、現在は元基の下に十両格以上が 8 名も加わっている。すなわち、上位陣がそれだけ引退したことになる。



コメント：

どの行司がどの行司の付け人になっているかは分かるが、なぜこのような割当てになっているかは予備知識が必要である。付け人は部屋、一門、他の要素を考慮に入れて割り当てられる。所属する部屋と一門を知れば、なぜ特定の兄弟子に割当てられたかが分かる。「他の要素」もある程度察しがつく。たとえば、三段目格以下の行司数が少なければ、二人掛け持ちになったり、異なる系統の兄弟子の付け人になったりする。付け人の割当ては３名の「行司監督」が行い、最終的に立行司の了承を受ける。

兄弟子と付け人の関係を見るために、所属部屋と一門を追加したものを次に示す[14]。

(1)　木村庄之助（立浪部屋、立浪一門）

木村亮輔（中村部屋、高砂一門）／式守憲吾（伊勢ケ濱部屋、立浪一門）

(2)　式守伊之助（井筒部屋、時津風一門）

---

14 付け人は三段目格以下の行司だけで、幕下格行司は兄弟子にもならないし、付け人にもならない。これが力士と違う点である。幕下格行司は十両格以上の行司の下で重要な仕事を見習うのに忙しい。負担軽減のために付け人を免除されている。しかし、付け人がつく「身分」でもない。

式守一輝（荒汐部屋、時津風一門）／木村達之助（境川部屋、出羽海一門）

(3) 木村玉光（放駒部屋、二所ノ関一門）

式守輝乃典（佐渡ケ嶽部屋、二所ノ関一門）

(4) 木村庄三郎（大島部屋、立浪一門）

式守正宏（伊勢ケ濱部屋、立浪一門）

(5) 木村正直（朝日山部屋、立浪一門）

木村照一（木瀬部屋、出羽海一門）

(6) 式守錦太夫（宮城野部屋、立浪一門）

式守友和（友綱部屋、立浪一門）

(7) 木村和一郎（高田川部屋、無所属）

式守志豊（佐渡ケ嶽部屋、二所ノ関一門）／（見習）木村勝之助（高田川部屋、無所属）

(8) 木村玉治郎（立浪部屋、立浪一門）

式守憲吾（伊勢ケ濱部屋、立浪一門）

(9) 木村恵之助（九重部屋、高砂一門）

木村隆之助（鳴戸部屋、高砂一門）

(10) 木村庄太郎（春日野部屋、出羽海一門）

木村秀朗（千賀ノ浦部屋、出羽海一門）

(11) 木村晃之助（九重部屋、高砂一門）

木村悟志（高砂部屋、高砂一門）

(12) 木村寿行（大島部屋、立浪一門）

式守正宏（伊勢ケ濱部屋、立浪一門）

(13) 式守与太夫（高島部屋、立浪一門）

式守友和（友綱部屋、立浪一門）

(14) 木村元基（湊部屋、時津風一門）

式守志豊（佐渡ケ嶽部屋、二所ノ関一門）

(15) 木村秋治郎（三保ケ関部屋、出羽海一門）

木村照一（木瀬部屋、出羽海一門）

(16) 式守慎之助（二所ノ関部屋、二所ノ関一門）

式守輝乃典（佐渡ケ嶽部屋、二所ノ関一門）

(17) 木村堅治郎（峰崎部屋、ニ所ノ関一門）

式守志豊（佐渡ケ嶽部屋、ニ所ノ関一門）

(18) 木村要之助（東関部屋、高砂一門）

木村達之助（境川部屋、出羽海一門）

(19) 式守鬼一朗（桐山部屋、立浪一門）

式守友和（友綱部屋、立浪一門）

(20) 木村朝之助（高砂部屋、高砂一門）

木村悟志（高砂部屋、高砂一門）

(21) 木村隆男（鳴戸部屋、ニ所ノ関一門）

木村隆之助（鳴戸部屋、ニ所ノ関一門）

(22) 木村光之助（花籠部屋、ニ所ノ関一門）

木村照一（木瀬部屋、出羽海一門）／（見習）木村一馬（花籠部屋、ニ所ノ関一門）